

マンゴスチン：フルーツの女王

東南アジアのジャングルでは、日が昇り夜の霧が消えていきます。普段とは異なり、今日の村や町の市場は、朝早くから賑わっています。熱帯気候のこの地域では、大半のフルーツや野菜を一年中収穫することができます。しかし他の何よりもすばらしいフルーツ、"フルーツの女王"の収穫期は一年に二回しかありません。

何世紀にも渡り、現在のタイ、ベトナム、カンボジア、中国、インドネシア、マレーシア、フィリピンの国名で知られている地域でも同じ光景が見られます。他の何にもまして賞賛され、珍重されているエキゾチックなトロピカルフルーツは、何世代もの人々に恵みをもたらし、楽しみの一つとして親しまれてきました。東南アジアの昔の人々は、このすばらしいフルーツを"フルーツの女王"と呼びました。19世紀になり科学者たちに"ガシニアマンゴスターナ"と呼ばれたこのフルーツは、現在では"マンゴスチン"と呼ばれています。

マンゴスチンの歴史的利用法

ヨーロッパ人が、18世紀初期に初めて東南アジアを訪れた遙か以前から、マンゴスチンは民間薬として利用されてきました。深紫色の皮は乾燥し粉碎後に、体内外の感染治療に利用され、マンゴスチンの湿布は、寄生虫による皮膚病治療に利用されました。また、マンゴスチンの果肉エキスは、体温調節に用いられました。ジャングルの植物やフルーツを熟知している人々は、マンゴスチンの皮、果肉、種までの全てを賞賛しています。



他の薬効のあるフルーツとマンゴスチンの違いは、そのすばらしい風味です。雪のように白く柔らかい果肉は、他の独特な味を持つトロピカルフルーツとは違い、甘くてとても美味しいです。熱帯地域に住む人々は民間薬として、何よりもマンゴスチンのそのすばらしい風味を宝としています。

"フルーツの女王"と国々で呼ばれるのも不思議ではありません。



ヨーロッパ人と海洋船の出現に伴い、マンゴスチンは他の遠い地域にも紹介されました。イギリスのビクトリア女王は、この珍味を口にすると即時に、マンゴスチンが自分のお気に入りのフルーツであると宣言しました。

今日では、オーストラリア、ブラジル、カリブ海の島々でも、マンゴスチンを見ることができます。マンゴスチンが生育する全ての地域の人々は、この特別なフルーツの有益性を理解し、マラリアから結核の治療まで、何にでも利用しています。現在ではマンゴスチンのすばらしい効能をより一層正確に証明する為に、科学的な研究が行われています。

幾代となく秘密にされてきた、健康を向上させるマンゴスチンが今、XANGOとして世に出されました。